



※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

### 「大学進学にかかる費用とその手当の方法」

8月12日(火)、当奨学金の委員でありK大学で教鞭を取られているT先生より、奨学生7名に「大学進学にかかる費用とその手当の方法」について、お話いただきました。

このお話をさせていただこうと思ったきっかけは、将来、医学系を目指しているという奨学生が数人いるものの、進学費用がどれくらいかかるかわかっているのだろうか、どうやって入学金や授業料を準備するのだろうか、と感じたことがきっかけでした。これまでの奨学生でも進学費用が準備できないから進学しないという生徒もおり、具体的に知ってもらふ必要があると感じたことから、今回の学習会を企画しました。

最初に、教育の効果(なぜ大学に行くのか)、ということをお大卒と高卒の収入の比較によって示されました。日本は大卒女性の就労収入が高卒女性の2倍近く、大卒男性は高卒男性の1.4倍程度であるということでした。

大学進学に必要な教育支出の私費負担割合では、北欧の5%程度に比べ、日本は65%程度と教育に公的資金の投入が非常に少ないとのことでした。これは、OECD平均の2倍以上であり、29カ国中チリ、韓国、イギリスについて日本は私費負担の割合が高い国とのことでした。

にもかかわらず、授業料が高く、学生支援があまり整備されていない国であることから、両親の所得によって進学率に格差が生まれています。両親の年収別の高校卒業後の予定進路では、両親の収入が多いほど、男女とも大学に進学する率が高く、1000万円以上の年収がある場合では60%以上が、400万円以下の年収の場合では約30%が大学進学するというように倍以上の開きがありました。また、年収が少ないほど特に女性の大学進学率が低くなるという、男女差も見られました。そして、都市と地方での進学格差もありました。

次に、関西の国公立と私立大学の入学金や授業料、全国の医学部の授業料、分野別の専門学校へ進学した時の費用も教えていただきました。

奨学金については、無利子のものから有利子のもの、母子世帯への貸付金などの入学時に必要なお金を貸し付けてくれる奨学金など様々な種類の奨学金について、金額や返済期間・金額、対象となる人など詳しく教えていただきました。

また海外の大学に留学・進学する場合に、どれくらいの費用がかかるかというお話もいただき、日本以外での進学も検討している奨学生にとっても非常に参考になるお話でした。(事務局S.Y.)

## 奨学生からのメッセージ

今回は、学校生活、夏休みの過ごし方・ルーツのある国と日本を比較して一、世界各地のニュースを通じて感じたこと、自分が決めたテーマの中から自由にテーマを選んで作文を書いてもらいました。

### I さん (7 期生)

#### 一学期の思い出

昨年の夏の終わりのころ、私は日本の高校受験のため、中国から五年ぶりに日本へ帰ってきました。中学にいた時、私は英語が得意だったので、英語に力をいれている K 高等学校を受験し、合格しました。学校生活に慣れていく中、色々な面で文化の違いを感じました。中国では、私は地元の小、中学校で勉強して来ました。毎日忙しく勉強ばかりで、あまり運動や音楽などは盛んではありませんでした。今の学校は多様な授業、行事やプレゼンテーションに取り組んで、様々な選択肢もあり、私は自分の将来に役立つような授業を選択できることにとても驚きました。そして、色々な場面で人の前でプレゼンテーションをして、とても豊富な経験などを得ることができるのです。

私がこの一学期に経験した日本の高校生活の重要な思い出のエピソードを紹介したいと思います。入学したばかりの時、私たちの一体感を高めるためのオリエンテーション合宿がありました。クラスは異なった学校からの生徒の集まりだったので、最初、みんなは話しづらくて、友達関係を築けませんでした。校歌を歌い、キャンプファイアーを囲み、飯盒炊爨をしていく中でみんなはクラスとして一体感を少しずつ持ち始めました。このオリエンテーション合宿で沢山の友達を得ることができ、とても楽しかったです。

最近、期末テストが終わり、球技大会が全学年で行われました。私のクラスはメンバー決めから作戦まで全員が情熱を持って参加しました。そして、勝つという決意がみんなの連帯感を築き、前日から緊張感が湧き、球技大会の日を迎えました。当日、気温はとても高く、周りの空気からは圧迫感を感じました。その中で、クラスみんなは互いに励まし、頑張った結果、優勝しました。

この K 高校で私は自分が医者になるという目標を見つけました。スポーツや学校の教科学習だけでなく、それに向って頑張りたいと思います。そして、様々な面で、自分を鍛え、医者になり、社会に貢献したいです。また、クラスメート、学年の友達や先輩たちと仲良く過ごし、良い高校生活を送りたいです。

### S さん (7 期生)

#### S 高校での最初の 9 分の 1

私が S 高校に入学し、既に S 高校で過ごせる時間の 9 分の 1 が終わりました。入学当時は中学の友達に会えず、新しい友達にも学校生活にも勉強にも不安を感じ、寂しさから泣いてしまう日もありました。しかし、徐々にそんな不安もなくなっていき、今では楽しい高校生活を送っています。そんな楽しい日々反して成績の面では不安以上に恐怖を感じています。前もって低く予測する成績をはるかに下回る結果を見ると、「やばい。」という言葉すら出てこなくなります。

中学の時からずっと入りたかった生徒会では、先輩とも仲良く打ち解けることができました。毎日、生徒会室は笑顔が絶えません。どんなにつらいことがあっても、慰めたり、笑いに変えてくれます。個性が本当に豊かなメンバーに囲まれ、生徒会に入ったことを誇らしく思っています。学校運営に関する仕事が沢山あって大変ですが、充実した放課後を送っています。ボランティア活動もしっかり参加しています。夏の日差しが厳しくなる中で、外でのボランティア活動はとても大変でとてもいい社会経験となっています。7月の初めには一年生にして体育委員長をさせていただきました。その後、すぐに球技大会がありました。体育委員長としての仕事が増え、忙しい日々が続いています。一年生

の球技大会は嬉しいことに私のクラスが優勝しました。とても嬉しかったです。

高校入学後、私は自分で自分のお弁当を作るようになりました。毎日、「明日は何にしよう。」と考えるのがとても大変です。

一年目の一学期では失敗や目指すべき次の目標が見えてきたと思うので、しっかりと気を緩めずに頑張っていきたいと思っています。夏休みでは、気が緩まないように自己管理をして、規則正しい毎日を送りたいと思っています。夏休みという長い時間を有効に使い、次の課題考査ではより良い成績を残したいです。

## Jさん (7期生)

### 『核エネルギー戦争』の時代の皆さんへ

現在、私たちは、新たに革新されたテクノロジーが、毎日のように発達し続けている時代を生きています。この急速に発達しているテクノロジーにより、数えきれない程の機器が作り出されました。機器を利用するためには、多くのエネルギーが必要です。しかし、エネルギーの量は限られています。米国エネルギー情報局 (E I A) の調査によると、日本の主要なエネルギー源は、石油、天然ガス、そして原子力だということが分かっています。

2011年、3月11日、東日本大震災が発生し、歴史上最も壊滅的なレベルの、原発事故が引き起こされました。津波が原発事故の原因となったのです。その津波により、福島第一原子力発電所の原子炉のうち一つにおいては、メルトダウンが起きました。原子炉からは、国際原子力事象評価尺度 (INES) で測ったところのレベル7に達する、多量の放射性物質が放出されました。この状況から、1986年、4月に起きたチェルノブイリ原発事故以来、最も大きな原発事故とされています。多量の放射性物質を帯びた水が、土壌に浸み込み、除染作業が必要になっていますが、これには数十年の年月を必要とするだろう、と考えられています。

この事故によって、日本政府は発電所の稼働停止を余儀なくされ、その結果、エネルギー消費における節約をしなければならなくなりました。そしてこれは、日本中での計画停電という事態につながったと言われています。

今日、福島第二原発の廃炉否決のニュースは、私を含め、多くの人々の注目をあつめています。そしてそのニュースは、核エネルギーが現在においても、使用されるべきかどうかという議論を再燃させました。

こういった状況においては、二つの立場が対立することは避けられません。そこで、二つの立場に対する、私の分析を伝えたいと思います。

まず、「反対」の立場から始めます。私は過去の事故が、議論するにあたって大きな影響を与えていると確信しています。私たちは皆、それがいかにリスクを伴うか、どのような形で私たちの環境に影響を与えるかを考えてきました。また、放射性廃棄物、原子炉の近くに住む住民がガンになってしまうリスク、電力不足などといった、より大きな問題も浮上してきました。この立場の人々の主張は、こういうことだと私は思います。それは、「予防する事」、つまりさらなるダメージを防ぐという事が、この論争の解決策となるということです。

次に、「賛成」の立場から。多くの人々は、この立場に立つ事を、自然に逆らう行為、と考えるかもしれませんが、そうではありません。原子力はCO<sub>2</sub>を排出しないので、地球温暖化を防ぐのに大変役立ちます。また、核エネルギーはこれまで世界の多くの研究者が、革新的な電力生産に関する研究対象とみなしています。

それゆえ、この立場はイノベーションの可能性を重視する立場だと、私は思います。それは、好奇心の追求を促進します。しかしながらそれは、発見と共に、私たちの環境を脅かすリスクを起こさせるのも、事実です。

社会における、若い世代の一人としての私の立場からすると、私は「賛成」の意見をより支持しま

す。この立場に沿って考えることが、対立そのものの、解決策を見出すことにつながると信じています。しかし、現在の段階では、このテクノロジーの危険性に対して、私たちはまだ知識が不十分であるという事も分かっています。そして、原子力の可能性を最大限に活用する為には、このテクノロジーの作用や特性について、もっと知る必要があります。

この問題を解決するには、何十年も、もしくは何百年も、時を要するでしょう。だから、将来の世代の皆さんへ。エネルギー戦争の時代をどう生きるか、一緒に考えていきましょう。

## Kさん (6 期生)

### バイアス

「中国が経済支援をしている」。

この言葉を聞いたとき、恥ずかしながら私は違和感を持ちました。

先日、NHK で放送されている「スーパープレゼンテーション」という番組でダンビサ・モヨさんのプレゼンテーションを見ました。彼女は、ザンビア出身の経済学者です。今回のプレゼンテーションの題は「中国は新興経済の星なのか」でした。内容は、中国の経済支援に対する民主主義の先進国と発展途上国の思いについてです。アメリカを中心とした民主主義の先進国は、中国の経済中心のやり方に反対だが、発展途上国はむしろ賛成だというのが主な内容です。

このプレゼンテーションに対して二つの考えを持ちました。一つ目は、経済についてです。先進国と呼ばれている国々は全て大規模な経済発展をしました。だからこそ、政治について考える余裕があるのだと思います。発展途上の国々に政治的思想を押しつけるより、経済支援を行った方が国民にとっては、嬉しいことなのかもしれないと納得しました。

もう一つは、気が付かない内に私の考えや意識にかかっていたバイアスについてです。文頭に書いたような違和感の原因は中国に対するバイアスだったと気付きました。ニュースなどのメディアで、中国政府やテレビ局などが対日感情を煽っているとよく報道されています。しかし、日本もそうなのではないかと今回のプレゼンテーションを見て思いました。発展途上国の国民に「期待の星」とまで言われるくらい現地に利益をもたらしているのに、中国が経済支援しているという報道を見たことがないのです。中国製の物は不良品が多いと言う人がいます。これは、日本人に限ったことではありません。しかし、歴史を見てみると、数十年前までは、日本製のものもそう言われていたのです。自分は外国にルーツがあるからバイアスはないと思っていましたが、そうではありませんでした。気が付かない間にかかっていたバイアスは、ほかにもあると思います。なので、これまで以上に気を付けたいと改めて思いました。

## Nさん (6 期生)

### 考えるうちにわかったこと

この作文の提出の日には、いつも期末考査が終わってから一週間程度の日。だから、いつもテストが終わって、のんびりしていく間にこの作文のことを思い出して、そして、カレンダーを見たら、提出日まであと三日とか。もう言わなくても、想像できると思うけれど、今回もこのパターンだ。さあー、急がないと遅れてしまう。

勉強でイライラしてきたら、「なぜ勉強しないといけないの」という疑問を持つ。そして、頭の中に浮かぶのは、勉強をすれば、いい成績がとれて、いい大学に入れる。いい職場でつとめられ、収入が高くなる、に至る。でもこの考えが正しいなら、お金のために勉強していることになる。そして、ここで考えをやめて、答えが出ないまま、毎日学校に行って、勉強をする。

時には、頑張って勉強したにもかかわらず、成績が伸びない。そして、なぜ伸びないのかを考えると、まず一つ目は、自分が受け身なのかどうか。自分から勉強する人のほうが勉強した内容が頭に残

りやすいから。二つ目は、勉強の仕方、ポイントを押えているかどうか。だから、勉強ができる人は時間よりも質と言われる。

そして、ある日、私は「人はなぜ勉強をするのか」の答えがわかった。それは、自分を高めるためであり、自分の夢を追いかけるための材料であるからだ。

だから、高2に入ってから、前よりも勉強している。ときどきさぼったりするけど、やるときはちゃんとやる。やっぱり、自分の人生だから、自分でちゃんと考えて、進むべきだと思う。未来は何があるかわからないし、何が起るかも予想できない。でも自立できる人間になりたい。周りの人たちを、一人でも多く幸せにしたい。

## Yさん (6期生)

### あきらめ、希望、そして志

二年生になって、もう三か月が経ち、勝負どきの夏が始まろうとしています。部活では、先輩方が引退し、自分たちの代になり、部員一人一人の意識が高まってきたのを感じる事が多くなった。ふりかえると、三ヶ月前までの自分はあきらめの気持ちでいっぱいだった。

一年前のこと、中学校での部活動が自分を成長させてくれた経験があって、高校では「O高校硬式テニス部」に入部した。実力のない自分は強豪校の練習についていくのに精一杯。進学校での勉強も精一杯。友達を作るのにも苦勞した。当時は、家族全員がペルーに里帰りする中での一人暮らしもあって、毎日が大変だった。入学してからの三ヶ月間は、しがみつような思いで通学していたと、今では振り返ることがある。

来日してから今年で十年目になる。来日当初は日本語が話せず、一年留年する形で、学年を下げられたことがいかに、今までの自分を苦しめてきたことか。実際に、テニスの大会には年齢制限があり、友達より一歳年上の自分は、ルール上大会には参加できない。

「大会に出られないんじゃないか、テニスが続いている意味がない。これなら、毎日手一杯の勉強を頑張るほうがためになるんじゃないか。」と思う日々が続き、部活に参加すること自体が苦になっています。「部活をやめたい。勉強をしたい。いつやめるべきか。でも、ここでやめたら、今までの努力が台無しじゃないか。」という心の葛藤が続き、この状況を切り抜ける方法を捜そうと悩んだ。母に話すものの具体的な対策法は見つからず、ますます一人で考え込む日々が続いた。本来の入学目的が、勉強を一生懸命がんばることであるにも関わらず、部活をどうしようかと悩むばかりで、授業にも集中できなくなっていきます。

さすがに、我慢できなくなり、顧問の先生に相談した。先生は自分の状況の把握していたようで、どうにか大会に出られないかと手を打っていた途中だった。それを聞いて、自分には希望があるようで、嬉しかった。同時に情けなかった。悩んでいた時間を取り戻したかった。

その後、あることに気が付いた。この三ヶ月間周りはみんなテニスがうまくなっていった。しかし、部活をやめることばかりを考えるようになったあの日から、自分だけ時間が止まったかのように、テニスは上達していなかった。ますます、自分が情けなかった。

それでも、あきらめないことが唯一の特技の自分はこうして、先輩として、後輩の手本になるべく部活を頑張っています。また、「テニスって楽しいな」「こんなショットを打ちたいな」と思うようになった。やはり、何事も全力でやり遂げることが勉強を頑張る近道だと、身をもって感じた。

動き出した、有意義な時間は、これ以上止まらせない。今の自分に必要なのは進み続けることです。球一つ一つを繋げるといことです。勉強も同様に解ける問題を一つ一つますことの積み重ねがものを言います。

球が途切れない限り、試合は続き、展開はかけ引き中心になっていきます。その過程でボールに緩急をつけたり、コースを突いて相手を走らせることで、相手より優位に試合を展開することができず。同時にネットにかけたり、アウトしたり、決められたりすることも多いかもしれないが、最後の

1 ポイントが決まるまで、あきらめずに自分のテニスをしていこうと思います。

この夏は、公式戦が二つ、団体戦やオープンキャンパスがあります。団体戦では、五十人以上から十人が選ばれ、チーム一丸となります。応援の力で〇高校を勝たせるという伝統を引き継ぐことが、今の目標です。

部活にも勉強にも全力のかけがえのない夏が始まろうとしています。

## 〇さん (5 期生)

### 学校生活について

私は、高校三年生になりました。そして受験生の真最中です。そんな真最中に球技大会が先日行われました。私の学校は、ドッチボールが中心で球技大会をしています。私は、運動系が得意な方なのでとてもがんばりました。特に、もう三年生なので、最後の球技大会ということなので、クラス替えして新しい友達とがんばりました。がんばった結果三位にしかなれなかったけど、とても満足でした。これで受験もがんばれる勢いで、とても良い学校行事だと思いました。

球技大会を終え、三者面談がありました。三者面談で少しずつ自分が進学したい学校について話をしました。私が行きたい学校は、評定平均三・五のところなのですが、今までの成績で私は評定平均が三・三しかないことが三者面談で分かり私はとても絶望的でした。

私は、自分の夢に対しての行動が全くたりていないと思いました。

自分の夢は、看護師になることです。ですからまずは、専門学校へ進学して夢の第一歩をふみださなければなりません。なので、次のテストで評定平均を上げ、少しでも多く受験できる専門学校があるようにしたいです。そのために、まずは自分の苦手な国語をがんばらなくてはいけないと思いました。どの専門学校も国語は、ほとんど受験科目となっています。国語ができなければ看護師は、務まらないからです。看護師は、患者さんを理解しすばやく対応することが必要で国語はとても大切だと思いました。これからの受験までにとくに看護専門学校で必要な受験科目を勉強して、過去問を解いたりして、受験の難しさを把握しておかないといけないと思いました。

私は、何年かかってでもいいから自分が看護師になる夢をかなえて将来家族を全力で支えたいと思っています。来年、お世話になった方々に良い報告ができるように私は、頑張ります。

## Sさん (5 期生)

### 今日も不安と背中合わせ

最近、たまたまテレビで聞いた「輝け」という歌にはまってしまった。その中で一番好きなのは「今日も不安と背中合わせ～」という言葉だ。これは、まさに今の僕を語っている。日本史が覚えられないという不安、模試の結果でE判定だらけだったという不安、国公立を目指しているのに、科目数が多い、時間が足りないという不安などなど、僕は不安を抱きながら、日々を過ごしていた。すると、ある日、「今日も不安と背中合わせ～」という言葉が僕の耳に入ってきた。そうだ、不安というのは負担ではなく、仲間だとみなすべきだと僕は考えていて、気が晴れた。その言葉から、僕は沢山の力をもっている。心の底にいる僕が「大学に行きたい。」と叫び続けているから、僕は頑張っている。

「えっ、放課後また図書館へ行って勉強するの？だるいな」と、今年二、三月ぐらいに先輩の話を聞いて、僕が思っていたことだ。いつからか分からないが、はっと気づいたら、僕もその先輩と同じことをするようになっていく。そして、週末も外へ出て、自分でもびっくりするぐらい、勉強時間を増やしてきた。それでも、学校の予習、宿題、毎日のようにある小テストに精いっぱい、まったく受験勉強をすることができない。このことを進路相談の先生に相談してみると、「日々の勉強こそが受験勉強だ」と言ってくれた。そして、僕は中国語でセンターを受けることになった。英語より中国語

の方が楽で沢山の点を取れるからだ。一旦、英語を放置してしまうが、大学に入学してから、しっかり勉強していきたいと考えている。

海外研修、そして、文化祭、楽しかった行事が盛り沢山あった。残ったのは受験だ。今年の夏休みは不安と背中を合わせて、受験勉強をしっかり頑張っていきたい。応援よろしくお願いします。

## **Nさん (5期生)**

### **私を大切にしてくれる人**

友達とはどういうもののでしょうか。一緒に出掛けて遊ぶ人ですか。自分が悩んでいることについて相談に乗ってくれる人ですか。

人間関係は大事です。人間はいつまでも一人では生きていけません。家族も友達も私達の人生の中ではとっても大きい存在です。

一人で大丈夫だという人もいますがそれは嘘です。もちろん一人で生きることは可能ですが、幸せにはならないでしょう。

ただ話すだけで人間の気持ちは楽になります。小さなことに見えるかもしれませんが、他の人と時間を過ごすという事はとってもいいことです。

しかし、人はみんな友達をつくるのが上手なわけではありません。いつも笑顔でいろんな人と喋って平気な人もいればとってもシャイで人見知りの人もいます。

ただし、難しくても諦めたらだめです。自分に自信を持つようになったら、きっと誰かとコミュニケーションをとれるはずです。

たしかに他人にはなしかけることは勇気がいることです。はなしかけても自分に合わない人もいます。だけど、そこで諦めてはいけません。

友達とケンカをした時は泣いても怒ってもいいですが、忘れないでほしいのは相手を許すことができるようにすることです。

友達は大事です。私は友達ができたことで自分が大事にするものを見つけただけではなく、自分を大事にしてくれる人も見つかりました。

一緒に泣いたり笑ったりする人はどんな大量のお金や高価なものよりも自分を本当に幸せにします。いつどこで友達をつくるかは重要ではありません。

人を大切にしたいと信用したいと思うならばかならずその人と友達になったことは後悔しないはずで。

友達とはいつまでも自分のそばにいてくれる人です。

### **～今後の予定～**

2014 年 10 月 19 日(日) 第6回 KOBE カンタービレコンサート 於:ピフホール

2014 年 12 月 奨学生交流会、面接、作文指導



## Yさんが「ひょうご・ヒューマンフェスティバル2014「in かさい」」で パネリストとして発表しました！

8月23日(土)に加西市民会館で行われた「ひょうご・ヒューマンフェスティバル2014「in かさい」」の「子ども多文化共生教育フォーラム」で、6期生のヤマサキ アントニさんが、パネリストとして発表しました。

テーマは、「地域とともに育つ外国人児童生徒の支援について」で、パネリストは、現役高校生2名、子ども多文化共生サポーター、地域支援者、行政関係者という構成で、それぞれの立場から、現状と課題、対応策などについて話し合われました。

Yさんは、現役高校生として、来日から現在にいたる自分の体験を中心に話しました。来日時に、日本語がわからず困ったこと、給食が口に合わず無理して食べたこと、日本のあいさつに慣れると、ハグやキスをしなくなり家族から冷たいといわれたこと、家族の中で一番日本語ができるので、小学生の時から病院や役所で親の通訳係をしていたこと、などの苦労した体験や、高校受験の時に自分の頑張りを友人に認めてもらい励ましてもらったことが自分の支えになったこと、現在は勉強と部活にうちこみ大学進学を目指している、といった進学に関することのほか、当奨学金のことにもふれ、外国にルーツをもつ子どもどうしが知り合い友人となれる場所があることの良さについて話してくれました。そして最後に、日本語とスペイン語で将来の夢を披露して、閉会となりました。

100人を超える聴衆を前にマイクを握っての発表でしたが、緊張しすぎることもなく、立派にパネリストを務めていた姿が、頼もしい印象でした。

(事務局ボランティア K.K)

## 今年度も引き続き、募金箱設置にご協力いただきありがとうございます！

(順不同、2014年5月9日現在)

百済、すーぷ房くだら(花隈店)、すーぷ房くだら(湊川店)、(財)神戸国際協力交流センター、神戸映画資料館、ほっとすてーしょん、おかしの家、神戸市教職員組合、神戸市教育会館、兵庫県学校厚生会神戸支部、広東料理悠苑、甲南女子大学多文化コミュニケーション学科、タンカフェ、神戸 YWCA、ベトナム料理メコン、インド料理チャルテ・チャルテ、南インドカフェダイニング チャルテチャルテ、チャオサイゴン、ブラジリアーノ、焼き肉みなみ、部落解放同盟兵庫県連合会

## 今後も引き続き、募金箱設置をお願いいただける団体・店舗を募集しております！

皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

## 奨学資金の寄付を受付中です

ご寄付いただける方は、以下のゆうちょ銀行の口座までお願いいたします。

口座名義：定住外国人子ども奨学金実行委員会

口座番号：

(ゆうちょからの振込の場合) 14370 87454771

(他行からの振込の場合) 店番 四三八 普通預金 8745477

問い合わせ先 定住外国人子ども奨学金実行委員会

〒653-0038 神戸市長田区若松町4-4-10 アスタクエスタ北棟502

NPO 法人 神戸定住外国人支援センター(KFC) 気付

TEL078-612-2402 FAX078-612-3052

E-mail kfc@social-b.net Web <http://www.social-b.net/kfc/scholarship/>

